



新しい日本人向けの アンケート式股関節評価

股関節疾患はレントゲンやMRIなどの画像検査にてほぼ診断可能ですが、痛みという症状、そしてその程度は患者さん本人にしか分からないものです。というのも、画像検査で判明する疾患の進行度と患者さんが感じる痛みの強さは一致しないこともあり、手術前の股関節の痛みや生活への支障の程度を評価することは大切です。

今回、ご紹介するのは日本整形外科学会股関節疾患評価質問票 (Japanese Orthopaedic Association Hip Disease Evaluation Questionnaire) 略してJHEQです。今までにも日本整形外科学会股関節機能判定基準 (JOA Hip Score) や Harris Hip Scoreなど様々な股関節疾患を評価する基準がありましたが、これらは医師が患者さんを診察して記録するものでした。しかし、近年は患者さん自身が記入するアンケート形式のものも利用されてきています。JHEQは患者さんの主観で疾患のある股関節の状態を数値化するもので、なおかつ日本人の生活動作に合わせて評価できるようになっていて、2011年より全国で使用できるようになりました。患者さん主体という性質上、医療者が回答を誘導することは望ましくないため、患者さん本人が様式に沿って回答していくことが原則となっています。JHEQは記入のための説明用紙が2枚、アンケート用紙が3枚の計5枚となっています。当センターでも2013年5月からJHEQを採用し、主に手術の治療効果を評価する基準の1つとして利用しています。

お手数をおかけしますが、あまり難しく考えず直感的にご回答頂ければ結構ですので、より良い治療のためにご協力をお願いします。



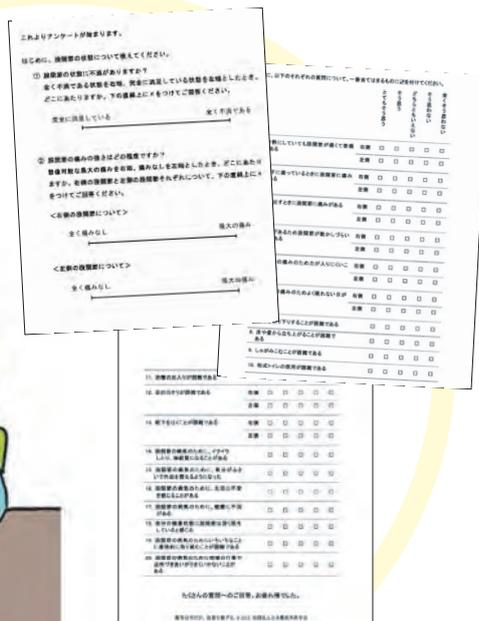
医師が診察して結果を記録

画像検査で判明する疾患の進行度と患者さんが感じる痛みの強さは一致しないこともあります。

新しい日本人向けの アンケート式 股関節評価



患者さんが自己評価する



皆様の率直なご意見が、皆様への今後の股関節の治療や支援に役立ちます。